〈研究ノート〉

グラミンバンクに関する研究調査（1）[1)]

——バングラデシュの事例から——

辰己佳寿子・日隈　健壬

（受付　1997年5月30日）

序
1.　グラミンバンクの生成と発展
　1）　発生と成長
　2）　組織と融資のシステム
　3）　融資とその効果
　4）　システムの有効性
　5）　問題点と課題

序

順風満帆だったアジア経済にかげりが見えるというポール・クルーグマン「アジアの奇跡は終わったのか」の批判を待つまでもなく，日本やNIEs，東南アジア，そして南アジア諸国との間に歴然とした経済的ダイナミズムの格差が見えている。そのことが，政策の影響であったり，開発の初期条件の相違，あるいは，いわゆる停滞のアジア諸国でみられる近代部門と伝統部門の二重構造論，あるいは工業化，輸入代替工業化の挫折，それにインフォーマル部門の存在を通して説明するだけでは解決できないアジア大躍進の影の部分が浮き彫りにされている。

これまでは，おおよそ一国の産業構造は経済の発展とともに農業部門の生産と雇用の比率が下がり，工業部門のシェアが上がるという経緯をたど

1）　この研究調査は，調査研究代表・辰己佳寿子，指導教授・日隈健壬によって，1995年度から財団法人信託協会による研究助成を受けているもので，現在（1997年5月）継続中のものである。本稿は，序は日隈，グラミンバンクに関する研究と文献紹介は辰己が中心的に執筆したものである。

る，いわゆる産業構造は高度化するというものであった。それは合わせて，その社会全体としての生産性と所得水準の上昇という現象をみせてきた。

ところが，人口が爆発的に増加する一方で，可耕地面積が限界に近づいた国では，農業技術の進歩によって，土地生産性を急激に高めながらも，そうした努力や成果を上回る過剰労働力を抱えることになる国々もある。その多くは南アジアであり，東南アジアの一部の国である。この研究調査は，そうした国々の中から，活性化の方策としての新しい動きや事例を探ることによって，停滞するアジアの中に期待される光の部分を発見することがねらいで，第1回は以下に報告するバングラデシュのグラミンバンク（Grameen Bank）である。

バングラデシュは，ベンガル湾に注ぐ三つの大河川，ガンジス，ブラフマプトラ，そしてメグナなどの国際河川とその支流・分流が縦横に流れ，広大なデルタを形成しながら，上流から運ばれる肥沃な土壌が，かつては緑豊かなインドの穀倉と呼ばれた水と緑の国である[2)]。このベンガル湾に面するデルタ地帯に新たに誕生したのが1971年12月のことであった。独立当時，日本の4割弱（北海道の2倍ぐらい）の面積に7,500人（1億1870万人／1994）が住み，うち85%が農村，労働力人口の約70%が農業に従事していたが生産性は低く，それが貧困の大きな原因であった。一人当たりGNPが72ドル（199ドル／1991）という極貧の経済の中から巣立つことになった。恵まれた河川から運ばれる肥沃な土壌をもちながら，例年の雨季には，そのデルタの大部分を洪水によって浸水させるというのもまた，この国の宿命でもある。そのために一人当たりGNPはネパール並みの世界の最貧国の水準にあったのが，翌年には開発政策がとられ，農業生産部門は民間で，その他の基幹工業，銀行・保険・サービス等は国有化とすることによって経済再建が進められた。しかし，1980年代には，クーデターによる政権交代によって諸規制緩和など自由化も鮮明にされ，銀行，保険の民営化をは

2)　［宇和川 1992: 62–65］［茨口 1993: 2–3］参照。

じめ，貿易，流通は民間資本にまかせ経済開発支出は海外からの援助に大きく依存する中で，民間主導経済政策の努力が続けられた。また，一方では，GDP の約 40%（1987～88）を占める農業は他のアジア諸国と同じように，他産業との相対的比率を確実に低下させながら，他方では首都のダッカは，1981年から10年間で80%近い異常に高い人口集中率を見せているのをはじめ，チッタゴン，クルナ，ラジャシャヒの地方都市に集中している。

雨季の作物（カリフ）と乾季の作物（ラビ）に分けられる代表的な作物は，前者が稲とジュート，後者が豆や雑穀，そして野菜などの畑作である。1950年から60年の間に稲は晩生稲と早生の二期作化に成功し，大幅に収量を伸ばし，更にその後，肥料の集約的利用と投入された肥料に稲をよりよく感応させていくための伝統的な氾濫水依存の在来農法から，潅漑農法への転換の成功，いわゆる緑の革命と呼ばれた時代の60年代後半に，栽培技術の革新によって，さらに収量を倍増させながら，潅漑の導入，化学肥料，また殺虫剤などの投入によって，農業の生産性だけでなく農村生活そのものの質を向上させることになった。しかしながら，こうした農業生産の伸びにもかかわらず，農村人口の都市への流出という現象は，人口そのものの増加を農村で吸収できないという可耕地の限界があった。これは南アジアだけでなく，東南アジア諸国でも似ている現象ではあるが，農業シェアの大きいところの場合，その発展を阻害しているのが，人口圧力である。有限な耕地に過剰労働力という状況では所得水準の上昇は容易ではない。そのために，青年層は都市に流出しながらも未成熟な工業部門では雇用の機会も少なく，参入障壁の低い商業，サービス部門（インフォーマル）に就く傾向が強い。また，こうした現象を，圧倒的多数がムスリムであるバングラデシュ農村とヒンドゥー農村の対照的な違いとする文化人類学的な見方もある。つまり，ムスリム農民は土地に対する執着が弱く，それは土地だけでなく職種に対しても移動性が強いという説である[3)]。

---

3) ［臼田 1996: 848］参照。

それはさておいても，そうした人口圧力のもとで，南アジアの農業は低迷を続けているという印象がある。中でも，バングラデシュの風土は，一見農業の持続的発展に対しては，マイナス要因が多いという報告もあるが，土地生産性においては確実に上昇している（米・1975(1853)，1988(2286)，とうもろこし・1975(1111)，1988(1558)，(kg/ha)）。しかしながら，激しい人口増加のために，一人当たり食糧生産指数は逆に下降しているのが現実である（1977(104)－1987(90)，'79－'81=100[4]）。

さらに，こうした人口圧力によって，南アジア諸国では，土地生産性の上昇を相殺する一方で，その人口増加は可耕地面積さえも減少させている。そのために耕地の細分化と売却，さらには自作農から小作農へとなって，農繁期の日雇労働者として農作業に雇用されていく，いわゆる「土地なし農業労働者」へと農民層の下方分解が見えてきた。

こうして農業の技術革新による収量の増加を土地生産性の向上と合わせて，農村の過剰人口をいかに非農業部門へ吸収させるかということが緊急の課題であり，可耕地さえもすでに限界にきている，南アジアや一部の東南アジアの共通の課題である。

こうした課題は，今，南アジアに共通しているように印象づけられているだけでなく，広く東南アジア全域に共通した課題となっている。そうしたアジア農業の中で，新しい技術が高収量品種を導入し，土地生産性を高め，さらには余剰労働力を吸収した国々と，そうした努力や成果を上回る過剰労働力を抱え，雇用吸収力も弱く，農民層の下方分解と絶対的貧困層の推積を残したままのバングラデシュ，インド，ネパール等の南アジア諸国との間に，格差が浮き彫りにしている。それは，日本に始まるアジアのダイナミズムとしての雁行形態論的発展や重層的な追跡形態論で説明することのできない周辺の途上諸国の今日的政策上の課題として残されてもいる。

---

4)　Asian Development Bank　調べ。

例えば，バングラデシュの成長率を通して，産業構造の変動をみていくと，70年代から80年代はじめにかけては，年平均6％弱であったものが，80年代では全般に成長率は低下しているし，中でも重要産業である農業部門では70年代が3.7％であったものが，80年代にはいると，1.64％に低下している。1980～93年における平均増加率は2.1％である[5]。にこうした変動の背景には，70年代の灌漑の拡大，化学肥料の投入によって高収量品種の普及が可能となって，「緑の革命」につながっていった。しかし，80年代になると87年と88年の二度の洪水の影響などがあって成長率は低下につながったとみられる。

一方，人口は1991年には，1億1千万人を突破し（118百万人／1994年），労働力人口も5000万人に達している。しかしながら，農業部門や都市部での吸収力は弱く，農村での非農業部門と都市部でのインフォーマル部門に吸収されている。統計の上では失業者（10歳以上で働く意志がありながら就業していないもの）は，総労働力の1.2％にすぎないことが「労働力調査」（1989）でわかる。農林水産業に就業しているものが農村労働者の70％で，あとは伝統的な職人，あるいは家内工業，その他のサービスと建設業などの非農業部門に従事している。

バングラデシュは，独立以来，重ねて5ケ年計画を繰り返し実施してきたが，それらの開発政策は，また，政府が変わるたびに大きく揺れた。そして今，一人当たりの国民所得は，200ドル／1993年で，もちろん国際収支は恒常的に赤字で，国家予算の約半分，政府開発投資では，約90％を海外援助に依存しているのが現状ではあるが，独立当時に比べると，インフラの整備，及び食糧自給も地域や村によっては達成し，全体としてあと一歩と，技術進歩の効果が生産量や生産性を高めていることから，経済成長が全く停滞していたわけではない[6]。

以上のようなバングラデシュ経済の現状の中で，主要産業である農業と，

5）［世界銀行 1995］参照。

6）［臼田 1996: 848］参照。

それを支えている地域社会としての農村の中で，一つの脚光を浴びているのが草の根運動的なグラミンバンクである。今回の研究ノート（1）ではその概要をまとめることにした。

1. グラミンバンクの生成と発展

1） 発生と成長

先記に述べたように，70年代から80年代にかけては，年平均6％弱の成長率を示してきたバングラデシュも，1980年代前半になると，激しい人口圧力によって，耕地の細分化と売却，自作農から小作へという農民達の下方分解が始まり，土地なし貧困層（所有土地面積0.5エーカー(0.2ヘクタール)未満）は，1983／84年度には，世帯比率で56.5%となった。そうした時代背景の中で，土地なし貧困層は担保となる土地物件がないために，農業投資を目的とした農業金融政策へは取り込まれにくかったのである。そして，政府系銀行などのフォーマル金融は，その返済率の低さや利用率の低さという欠陥をもっていたため，零細農民や小農民は高利貸しや質屋などのインフォーマルな高利金融への依存体質から脱皮できなかった。それは，主に農村でフォーマル金融が取引条件を履行させるのに要する取引費用の高さや，借り手を選別するための情報の不完全性を解決するようなシステムが不備だったために直面する問題でもあったのである。

こうした中で，土地なし貧困層やなかでも貧困女性たちを対象とした農村銀行・グラミンバンクが1983年に設立した。

それは，農業金融というだけではなく，多くの余剰労働力が流れた農村地域における非農業部門へも融資する「農村金融」としての機関の必要性に迫られ，1976年にチッタゴン大学経済学部（当時）のムハンマド・ユヌス教授(Yunus, Muhammad)氏を中心に行われたプロジェクトから始まった。グラミンバンクプロジェクトの目的は，①これまで銀行にアクセスできなかった土地なし貧困層にアクセスを可能にすること，②高利なインフォーマル金融の搾取を防止すること，③経済的チャンスを与えることに

よって潜在能力を引き出し自己開発の機会を与えること，④社会的弱者にある人々に互いに助け合い自立できる組織のフレームワークを作ること，⑤貧困の悪循環を抜け出すこと，などである[7]。また，「貧困とは，基本的ニーズに関する人権の否定であり，経済開発をたんなる経済成長の問題として捉えるのではなく，人権問題として扱うべきであり，貧困緩和のための方法の一つとして，信用貸付の機会を与えることが重要である。貧困者は，低利で融資が行われ，自由に使える資金があれば自分の運命を切り開くことができる」とユヌス氏は言っている[8]。

設立後のグラミンバンクの成長は表1に示すように，1994年には，支店数1,045店で，農村の半分強の村々で活動し，メンバーは貧困世帯のおよそ20%にあたる約200万人で，そのうち女性の占める割合は約94%である。

時間が経過するに従って，グラミンバンクの功績としては，これまでの金融機関の融資の絶対条件として要求された土地担保という常識を打ち破り，土地なし貧困層と貧困女性たちへの資金アクセスを可能にしたこと，その融資によって雇用機会が創出されたこと，また懸念されていた返済率が高かったこと（約98%）などが特に注目されている。さらに貧困層の社会意識や地位の向上にインパクトを与えた社会開発プログラムとしての評価も高い。このようなグラミンバンクシステムは国内活動だけでなく国外にもひろがりアジア，アフリカ，中南米など途上国はもとより，広くアメリカ，ヨーロッパにも波及している[9]。

2） 組織と融資のシステム

組織は，図1のように，本店(ダッカ)，広域事務所，地域事務所，支店，センターで構成されている。広域事務所は県庁所在地にあり，12箇所（1994）

7） [Yunus 1982: 11] [Ghai 1984] [Hossain 1983] [Yunus 1981] [Yunus 1978] 参照。

8） [内田 1997: 106–107] [Ahsan 1996] [Yunus 1996] [Yunus 1994] 参照。

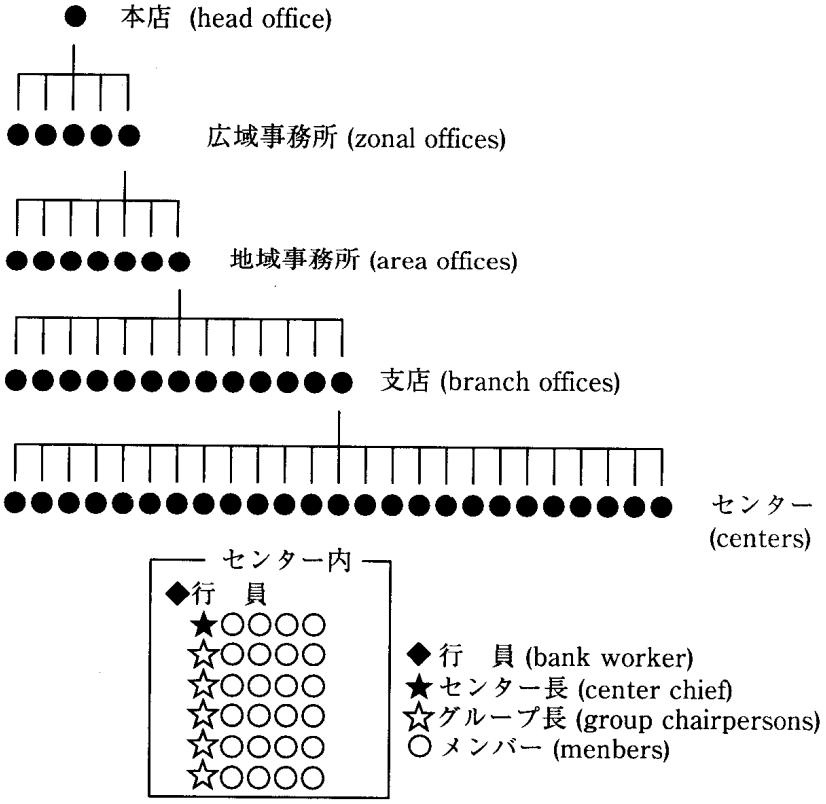
9） [Gibbons 1995: 103] [吉田 1996: 55] 参照。

表1　グラミンバンク実績　（百万タカ）

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994
支店数	25	25	54	86	152	226	295	396	501	641	781	915	1,015	1,040	1,045
活動村数	363	433	745	1,249	2,268	3,666	5,170	7,502	10,552	15,073	19,536	25,248	30,619	33,667	34,913
グループ数	2,935	4,814	6,243	11,667	24,211	34,324	46,870	67,831	98,073	132,452	173,909	213,286	284,889	372,298	412,145
メンバー数	14,830	24,128	30,416	58,320	121,051	171,622	234,343	339,156	490,363	662,263	869,538	1,066,426	1,424,395	1,814,916	2,013,130
男	—	—	—	31,782	53,006	59,260	60,458	63,556	69,398	73,461	77,932	80,053	90,110	107,361	120,843
女	—	—	—	26,538	68,045	112,362	173,885	275,600	420,965	588,802	791,606	986,373	1,334,285	1,707,555	1,892,287
借入者数	11,644	21,704	24,177	46,955	106,943	152,463	209,467	328,557	472,430	648,267	852,622	1,041,630	1,385,324	1,682,914	1,860,674
累積融資額	21	53.7	95.6	194.9	499.3	927.7	1,469.5	2.279.5	3,559.9	5,328.2	7,590.7	10,230.2	15,434.0	26,056.1	39,968.4
融資額	17.1	32.7	41.9	99	304.4	428.4	541.8	810.0	1,280.4	1,768.3	2,262.5	2,639.5	5,203.8	10,622.1	13,912.3
グループファンドからのローン	0.1	0.5	2.2	4.8	11.3	22.3	395.3	73.0	131.9	224.3	354.8	544.2	750.2	1,043.1	1,533.9
住宅ローン累積貸付	—	—	—	—	—	20.8	26.5	167.2	337.6	573.9	798.5	1,100.4	1,659.7	3,332.7	4,671.2
累積返済額	7.3	32.7	64.2	123.2	322.6	702.4	1,168.3	1,822.1	2,836.4	4,331.6	6,320.2	8,645.2	12,265.4	19,889.0	32,075.1
返済額	—	25.4	31.5	59	199.4	379.8	465.9	653.8	1,014.3	1,495.2	1,988.6	2,325.0	3,620.2	7,623.6	12,186.1
グループファンド	1.6	4.4	8.1	160	37.9	71.4	114.5	186.3	297.4	4,510.0	649.6	891.9	1,307.8	2,117.4	3,147.4
緊急ファンド	0.036	0.3	1.4	3.4	6.3	12.7	22.3	34.7	54.3	84.0	128.8	182.1	190.1	216.9	222.6

資料：Grameen Bank, *Annual Report 1984–1994*. Dhaka.
Ghai, Dharam, 1984, *An Evaluation of the Impact of the Grameen Bank Project*, Grameen Bank, Dhaka: 11.

図1　グラミンバンク組織図



出所：Fuglesang, Andreas and Chandler Dale, 1994, *Participation as process*, Dhaka, Grameen Bank: 58の図2より著者作成。
注：本店及びグループ以外の数は便宜上のものである。

で地域事務所を統括する。地域事務所は，資金の貸付，管理，回収の最終的権限および責任を有し，群レベルの小さな町にあり，通常10～15の支店を監督し，1994年では110箇所にある。支店は，通常1つの行政村（union）に含まれる15～20の村落（gram）をカバーし，支店長，行員，経理係，助手から構成される。支店数は他銀行と比較してみると，1993年で全体の16.37%[10]を占める。センターは，6組のグループで成り立ち，グループ長の中からセンター長と副センター長を選び，ミーティングや返済の管理や全体の統制を行員と協力しながら運営していく。人々が銀行に出向いていくのではなく，行員がメンバーのところに直接行き，毎週行われるミーティ

10）［BBS 1995］参照。

ングに出席し，そこで銀行業務を行う。行員は，大学卒業者からカレッジ卒業者まで新規に採用され，現場重視の研修によって業務を身につけるようになっている。

グラミンバンクの最高意思決定機関は13人で構成される理事会であり，4人は政府に任命，残り9人はメンバーの株主から選出され，銀行の基本方針を決める理事の2/3以上をメンバーが占めている。グラミンバンクはメンバーに銀行の株の購入を奨励しているため，全株式の95%までがメンバー所有となっている。

融資を得るには，0.5エーカー未満の耕作地しか持たないか，または資産の合計が1.0エーカー相当未満の人たちで，同じ村に住み，信頼関係をもった，社会経済的背景が似通っている人々で5人組を作らなければならない。

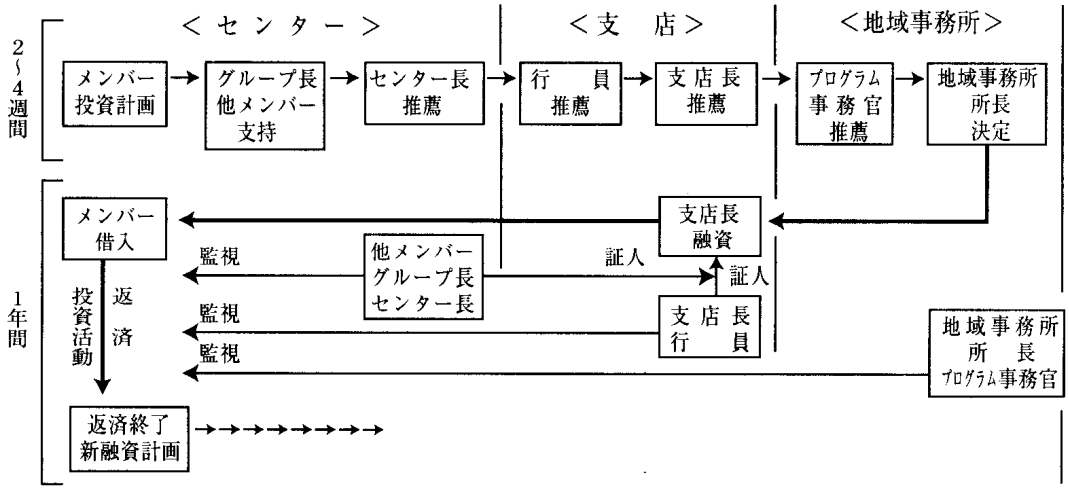
グループがつくられてからは，1カ月間は規律を守れるかどうかの監視を受け，銀行の目的，規則や役割，グループ長やセンター長の仕事，貯蓄プログラムや健康，教育など社会開発プログラムについての説明と名前の書き方などの研修を受けなければならない。そして，グループのメンバーがそれぞれ1年ごとにグループ長と書記を担当し，メンバーは毎週行われるミーティングに参加しながら相互に監視し合い，連帯感を強め，統制を保っていく。

資金は5,000タカ（約114 US ドル）[11]を限度として貸し出しされるが，それまでには，図2の融資決定過程に示すように，まず，メンバーが立案した投資計画をグループ内で検討し，グループ長とセンター長が十分に検討理解した上で，その利用方法と目的を行員に提出する。行員は，それを再度検討有望であれば，推薦の書類を支店長に提出，その後支店長が地域事務所のプログラム事務官（Programme Officer）に申請し，最終決定は地域事務所の所長が行うという手続きがとられるのである。

貸付を受けると翌週から週1回の割合で返済をしていかなければならな

11）　1997年7月14日の Bangladesh Obserber の 1 US ドル＝43.8タカを基準にしている。（この研究ノートの最終締切は7月末である。）

図2　融資決定過程



出所：Holcombe, Susan, 1995, *Manahing to Empower*, Dhaka, University Press Limited: 130 の図 6 を参考に著者作成。

い。1年52週間の返済で年利は20%（1992年～）で実質金利は10.2%である。民間銀行の年利16%より少し高いが，年利100%を超える高利貸しより大幅に有利である。貸付は，まずグループの2人が受け，1～2カ月間ほど返済状況が監視され，その状況が良好であればの他の2人の貸し付けが行われ，最後にグループ長の番となる。一人でも返せなくなると残りのメンバーは借りられない。

メンバーはグループファンド（group fund）という，毎週1タカ（95年からは2タカ）ずつ積み立てる共同貯蓄が義務づけられている。また，貸付を受けた時は，貸付額の5%を積み立てなければならない。これは病気や冠婚葬祭などの資金を必要な時に他メンバーの同意を得て，無利子で使うことができる。貯蓄利子は8.5%である。

また，自然災害や事故のときのために銀行に支払う利子の25%相当の額をおさめる緊急ファンド（emergency fund）というものがあったが，95年に廃止されている。

貸付の中には，住宅建設・修理などを目的とした住宅ローン（house loan）という，最高25000タカの貸付額で，年利8%，返済期間は最大10年の多

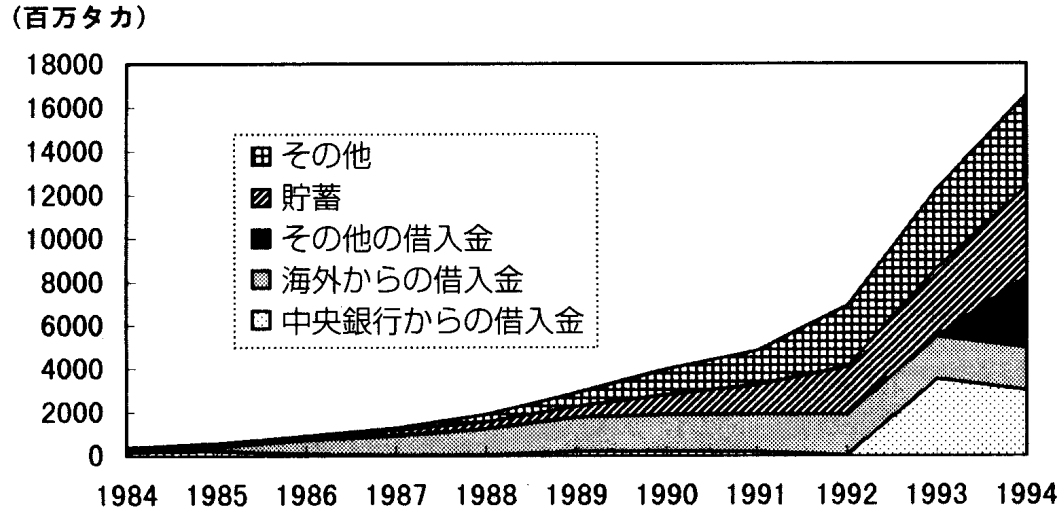
額・長期ローンがある[12]。

また，グラミンバンクの資金調達は，図3に示すように，主に中央銀行からの借入と IFAD（Interenatinal Fund for Agricultural Development: 国際農業開発基金）を中心とした海外資金によって成り立っていて，金融機関としての自立性を欠いているといわれている。しかし，徐々に貯蓄のシェアが増え，1994年では，約25%を占め，海外からの借入金のシェアは1割をわった。他銀行からの借り入れや債券の発行などによって，少しずつ自立の方向にむかっているといえよう。1994年以降以降になると，貸付資金は長期かつ低利で貸し出す住宅ローン以外は，全て国内で調達できるようになったといわれている[13]。

3）融資とその効果

表2は多少偏りがあるといわれているグラミンバンクの発行する年次報

図3　グラミンバンクの資金調達



資料：Grameen Bank, *Annual Report 1984–1994*, Dhaka.
注：その他は，払込資本金，内部留保，負債などで，その他の借入金は，他銀行からの借入や債券の発行である。

12）以上［Hossain 1993: 10–21］［Fugelsang 1994: 211–218］［藤田 1990: 152–154］［Mizan 1994: 18–22］［大橋 1997］［Ray 1987］［渡辺 1997］参照。

13）［渡辺 1997: 38 参照］

表2　グラミンバンク融資先（1994年12月31日まで）（百万タカ，%）

	男　性		女　性		合　計	
	金　額	シェア	金　額	シェア	金　額	シェア
畜産・漁業	507.16	14.39	12,142.40	33.32	12,649.55	31.65
作物栽培・林業	576.56	16.36	9,853.00	27.04	10,429.56	26.09
加工・製造業	656.36	18.62	6,802.61	18.67	7,458.97	18.66
商業	1,287.71	36.53	5,259.72	14.43	6,547.44	16.38
商店	201.72	5.72	1,556.16	4.27	1,757.88	4.40
行商	68.12	1.93	383.87	1.05	452.00	1.13
サービス業	164.47	4.67	328.21	0.90	492.68	1.23
共同事業	62.71	1.78	117.62	0.32	180.33	0.45
合　計	3,524.82	100.00	36,443.59	100.00	39,968.41	100.00

資料：Grameen Bank, *Annual Report 1994.*

告をもとに，1994年12月までの累積融資先を活動別に示したものである。それぞれの活動を具体的にみれば，以下のようになる。

畜産・漁業　　乳牛・肉牛・ヤギ・羊などの飼育，家禽飼育，養魚
作物栽培・林業　稲作，野菜・サトウキビ・果物栽培
加工・製造業　　籾すり，竹細工，ござ・漁網作り，絨毯作り，裁縫
商　　業　　籾・米・季節産品・小麦粉・野菜・衣類・牛の取引
商　　店　　雑貨店，文房具店
行　　商　　衣類，文房具，タバコ
サービス業　　リキシャ[14] 引き，リヤカー引き，水運，理髪

女性に人気があるのは，畜産・漁業部門では乳牛の飼育で，次に肉牛飼育，家禽飼育などが多く，加工・製造業部門では籾すりが半数を占める。女性は活動範囲を制約されているために，家事の合間をぬって，家の敷地内で活動できるものが多い。男性は，外で活躍する商業部門が多く，圧倒的

14）リキシャ－三輪の自転車型人力車。

にリキシャ引が多い。注目すべき点は，生産部門よりも農業の高度化や商業化を促す，高付加価値的な事業が多いということである。共同事業というのは，農地の共同借り上げ，耕作，魚の養殖，灌漑ポンプの設置・運営などで，組織後何年か経って資金力のついたセンターが取り組んでいるものである。最近の動向では，毛織物の伝統的な技術を生かした「グラミンチェック」という製品を売り出したり，携帯電話をリースし，公衆電話はおろか，電話線さえほとんど引かれていない農村地域において，その人がいわば「動く電話会社」として情報の媒体役になるという通信事業もあり，資金有効利用の場を提供している[15]。

次に，その融資による社会経済的効果をみていくと，まず，大きく世帯当たりの所得が向上したことがあげられる。

表3は，1982年のHossainの調査と1985年のRahman[16]が行った調査で，グラミンバンクの借手の所得レベルを比較したものである。1982年は1000タカ以下が33%であったのに対して1985年は1人もいない。2000タカ以上は1982年で19.5%に対して1985年は82.3%を占めている。1人当たりの平均年収は1982年半ばで1,762タカであるのに対して，1985年の初期には2,697タカであり，実質53%の所得の上昇がみられた。それは，1980年から82年の32%の成長率を上回っている。

また，表4の収入源をメンバーと非メンバー，グラミンバンクが活動していない村の土地なし貧困層の比較調査[17]をみてみると，非活動地域の収入源は，季節に左右される不安定な農場労働からの収入が最も多いのに対して，活動地域はメンバーも非メンバーも，加工・製造が最も多く，続い

15）［Grameen Bank 1995］［渡辺 1993: 90］［渡辺 1997: 53–57］［シャムス 1996: 28–31］参照。

16）Hossainの調査は1982年にタンガイル県で613世帯を対象とした調査である。Rhamanの調査はHossainの調査地と同県ではあるが，調査世帯は違い，数も61世帯と，厳密性に欠けるが，比較に適した世帯を選んでいる［Rahman 1994: 16参照］。

17）1985年に国際食糧政策研究所が行った調査に基づいている［渡辺 1997: 39–40］。

表3　借手の所得レベル（1982年・1985年）（%）

一人当りの年収	1982年調査		1985年調査	
	世帯率	所得率	世帯率	所得率
750まで	18.0	8.0	—	—
750 − 1000	15.0	10.3	—	—
1001 − 1500	28.9	27.8	5.9	2.5
1501 − 2000	18.4	21.4	11.8	7.2
2001以上	19.5	319	82.3	91.3
合　計	99.8	99.4	100.0	100.0

注：1982, Hossain 調査，1985, Rhaman 調査。1985年は1982年の価格に合わせてある。
資料：Rhaman, Atitur, *Demand and Marketing Aspects*, Grameen Bank, Dhaka, 1994, p25.

表4　収入源の比較（単位：タカ）

収入源	グラミン銀行のメンバー	同じ村に住む非メンバー	別の村に住む非メンバー
農業	5,606	5,323	6,577
耕作	2,782③	2,199③	2,312②
家庭菜園	512	305	567
畜産・水産	941	788	928
農場労働	1,371④	2,031④	2,770①
農業外	12,528	8,881	6,119
加工・製造	4,355①	2,753①	1,119④
売買	3,859②	2,234②	1,369③
輸送	1,352	572	735
賃金労働	670	826	738
その他	2,292	2,496	2,158
総収入（年）	18,134	14,204	12,696

渡辺龍也，1997.『「南」からの国際協力』，岩波ブックレット，p40.

て，売買と非農業部門からの収入が多い。これは活動地域の経済状況が非農業部門において活発化していることを表わしている。

その他に，インフォーマル金融依存度の減少，投下資本の収益性の向上，とくに非農業部門への雇用機会の増大などが報告されている。また，地主たちは，小作人が少なくなり条件が向上した，農場労働者の数が減って賃金が上昇した，メンバーは自分たちの派閥から離れ，派閥争いがあっても応援しにこなくなった，と答えている[18)]。

また，融資先が，生産活動だけでなく，流通，加工部門にも重点が置かれていることを考えれば，それらの部門の発達によって，穀物以外の食物や衣服などの生活用品が入手しやすい環境が整い，消費の多様化をもたらした。

村人の家は，家畜や農産物の保管場所や内職の仕事場に使われることが多いため，住宅ローンで，トタン屋根に変わったり，セメントを使用した家になることによって，貯蔵されたものが雨漏りから守られる，仕事の能率が上がるなどの効果があり，さらには健康が増進したり，家の維持も容易になっている[19)]。

さらに，グラミンバンクは，健康や栄養，子供の教育，家族計画，保健衛生，栽培方法などをテーマとした数々のワークショップや社会教育プログラムなどを行い，意識向上を促している。1984年に行われたナショナルワークッショップでは，そうした経験を通して考えた生活改善などの内容をもりこんだ「16の誓い」が採択されている。これらを通じて，情報交換をしたり，互いの親睦や協同意識を育んでいるのである[20)]。

4)　システムの有効性

ここで，バングラデシュのグラミンバンクのシステムから考えられる有効性を整理しておきたい。先ず，社会的担保としてのグループ制の効果として，相互監視が返済インセンティブになっていることや融資の審査・監

---

18)　［藤田 1990: 156–157］［渡辺 1997: 42］参照。

19)　［大橋 1997: 2–5］［Ialam 1989］参照。

20)　［Fugelsang 1994: 126–136］［Hossain 1993: 19–20］［Mizan 1994］参照。

督・債務履行強制などを低コストで実現し，農村金融市場が直面する情報の不完全性を克服できたことがあげられる。ふたつめに，借手の取引費用を削減するために，識字率の低さによる手続きの問題は銀行側が指導し，銀行からの距離が遠いという点では移動業務によって銀行側がそのコストを肩代わりしている。このコストについては，海外資金によるところが多いが，銀行の運営が軌道に乗るまでに，援助資金が物理的側面ではなく，運営を円滑にするために利用されてきたということを考慮にいれたい。三つめに，グラミンバンクは，人々に一時しのぎ的な物やお金を与えるのではなく，小規模融資の機会を提供することによって，自分に適した事業を行い，自分のニーズを満たすために物やサービスを手に入れる過程で，経済活動の一員としての自立を促した。さらに，ワークショップでの討論や責任ある職務の経験は，社会的に自立した存在としての意識をも高めたのである。

では，そのシステムの有効性をもつ地域の特徴はいかなるものか，整理してみると6つの項目があげられる。

①インフラ整備が遅れ，労働集約的な工業化が進んでいない地域。つまり，工業化が進んでいれば，韓国や台湾のように，雇用の需要が増大し，生活水準もあがっているはずである。問題なのは，農村の貧困層の多くは零細農民や家内工業などの小規模生産者か，農業労働者であり，製造業などの近代部門の雇用機会が非常に限られていることであり，現行生業の生産性を高めたり，自己雇用のために，資金が必要となっても土地などの担保を持たない人は，金利の低いフォーマル金融へのアクセスは難しいということである。そのままだと永遠に貧困層はその状態から脱することができない。そこで，グラミンバンクのようなグループ制による社会的担保によって，小規模であっても融資が受けられれば，そのターゲット層を取り囲む経済が活性化するひとつのきっかけとなのである。

②マンパワーの育成が遅れている地域。特に注目されるのは女性である。グラミンバンクのメンバーの9割近くが女性で占められているのは，ミー

ティングやワークショップへ参加する機会費用[21]が低いことが要因のひとつである。社会参加の機会が少ない女性たちにとって，ミーテングへの参加は学習や社交の貴重な機会となっている。女性の家庭での役割や社会的役割は，その社会的背景によって大きく左右されるが，一般的に，社会保障制度が不整備であるがゆえに多産傾向の強い社会において，女性の地位は低いことが多く，多くの女性は母としての役割で生涯を終える傾向が強い。しかし，その役割に経済的行為者としての役割が加われば，その効果は特に家庭に波及する可能性が高いのである。

1985／86年度の労働力調査によれば，女性労働力は320万人で女性の労働参加率は6.4%で，労働力全体ではわずか10%を占めるにすぎなかった。その後，就労の定義が変更され，家畜・家禽の飼育，籾すり，食物加工・貯蔵といった，従来は就労とはみなされなかった活動が統計上把握されるようになったため，1990／91年度には，2100万人で，労働力全体の39.3%であった。しかし，従来の就労の定義で，上記の活動，従業者を除くと14.2%にすぎない[22]。

このように女性のマンパワーが活用されなかったことが多いために，女性のもつポテンシャルは大きいものと思われる。よって女性のマンパワー育成は重要であり，そのひとつの政策としてグラミンバンクのようなシステムが適応すると考えられる。

③貨幣経済がある程度浸透している地域。貨幣経済が浸透していれば，その媒体としてのお金の役割が大きく，それぞれのニーズを満たすための最も自由になる資源としての役割を担う。

④融資を効果的に使うために，農村経済の多様化が進み，非農業部内の事業のチャンスが存在している地域。純農村では難しい。

⑤移動業務を効率的にするためには，人口密度の高い方がよい。

21）　機会費用（opportunity cost）――ある財を特定の目的に使用するために，他の用途から生じたであろう利益を失うこと。

22）［BBS 1995］参照。

⑥フォーマル金融は，情報が不完全な金融市場では，信用割当[23]に陥りやすいため，情報が不完全な地域ではグループ制が有効に利用される。

以上のことは，途上国の状況と重なる部分が多く，これらの特徴をもった地域への有効性は高いと思われる。

5） 問題点と課題

グラミンバンクのような小規模信用貸付は，1970年代半ばより，貧困緩和政策として開発政策の中に位置づけられ，この20年間の間に世界各地で実施され，多くの貧しい人々を顧客として抱えていること，しかも100%に近い返済率を実現していること，参加世帯の所得向上がある程度認められていること，などを理由に注目されている[24]。その成功例としてよく取りあげられるのがバングラデシュのグラミンバンクだが，その評価が誇張されすぎているという批判も強く，生成から20年の間に様々な問題が浮上してきているのも事実である。

まず，グラミンバンク内の問題点としては，グラミンバンクの規模が拡大するほど癒着や雇用コストなどの運営面での問題が生じている。規模の拡大に伴い行員一人当たりの業務量が増えると，行員がどんなに研修や訓練をうけていても，作業が機械的になりがちである。実際に，行員の態度の悪さを理由にやめていった人の例も少なくない。よって，運営コストの削減と同時に，サービスの質を落とさないようにしなければならない。

返済率に高さにおいても，意識の向上というより，返済の取り立ては夫や親戚のところへ行き，強引に返済させるなど，取り立ての厳しさの要因も強いといわれている。

資金使途に関しては，顧客を集めることが優先し，利用方法が明確でな

23） 信用割当（credit rationing）――貸出市場での競争が不完全で貸手が優位にある場合，貸手が一定の基準で借手を選別し，自己の期待利益が最大になるように資金を割り当てること。

24） ［岡本 1994: 4］参照。

いうちに貸し出し，適切な投資ができず，負債を抱えてしまい債務不履行になる傾向もあり，図2の融資決定過程の機能について疑問がもたれる。さらに，資金需要のある者や富裕層などに又貸ししているケースや，実際，女性に貸し付けても女性が傀儡になっているケースも多く，誰のための貸付か疑問視されている[25]。使途による受益者とその管理が本人であるかどうかという正しい見極めも行員への力量が問われるところであろう。

さらに社会全体として考えてみると，最貧層への到達の問題があがってくる。

グラミンバンクの有資格条件は貧困層にとって優遇されたものでありながら，入る資格はあってもグループ制は必然的にその排除的行為に陥らせる。それがグループ制の効果であるといってしまえば致し方ないが，はじめから入れない人や，ドロップアウトする人を生み出している。グラミバンクに入らない原因は定期収入がないことが大きな理由で，ドロップアウトの原因は，返済できない，取り立てが厳しい，融資が必要ない，ミーティングが面倒であるなどが挙げられる。返済不能，移住，死亡などでぬけるメンバーは，常時15%前後であるといわれている[26]。それらの層をグラミンバンクがどう取り込んでいくのか，それとも他のプログラムがカバーしていくのか，それとも社会的弱者としてそのままなのかという点で議論が分かれるところであるが，ここにグラミンバンクの限界があると思われる。つまり，「費用があまりかからずにアクセス可能な何らかの金融制度は，各世帯と地域の経済活動の活性化にとって不可欠であるが，それはあくまでも手段の一つである」[27] といわれているように，グラミンバンクは，確かに社会開発プログラムとしての側面をもっているが，あくまでも銀行で，銀行としての利潤追求を軸として顧客管理を優先しなければならない。つまり，社会変容過程において，インパクトあたえている政策のひとつなので

25）［Goetz 1996］参照。
26）［渡辺 1997: 49］参照。
27）［岡本 1997: 5］

ある。

小規模信用貸付は，近年，多くのNGOや政府のプロジェクトで採用するところが増え，一種の流行の感も拭えないが，それらは，実行する側の組織の体質にもよるであろうし，「意識化」[28] なのか，貸付なのか，軸をどこにおくかという点でその方向性は大きく変わってくると思われる。そして，そのシステムは地域の事情に適応していかなければならないだろう。

また，インフォーマル金融による貸付は高利であるという見解から，農村開発によるフォーマル金融が拡大し，インフォーマル金融のからの貸付の割合が減少しているが，近年，インフォーマル金融は開発途上国において，即効性や情報の不完全下での取引費用上の利点からその役割が見直されていることも忘れてはならない。

グラミンバンクと多組織の信用貸付プログラム，フォーマル金融とインフォーマル金融が，どう共存し，リンクしていくかが今後の重要課題である。そのためにグラミンバンクがどういう役割を果たしていくのか，今後調査研究を進めていきたい。

参 考 文 献

Ahmed, Zia U., 1989, "Effective Cost of Rural Loans in Bangladesh," *World Development*, Vol. 17, No. 3: 357–363.

Ahsan, Muhammad Badrul, 1996, *Grameen Bank and Muhammad Yunus*, Mowla Brothers, Dhaka.

Bangladesh Bureau Statistics (BBS), 1996, *Statistical Pocketbook of Bangladesh 1995*, BBS, Dhaka.

Bangladesh Bureau Statistics (BBS), 1995, *Statistical Yearbook of Bangladesh 1994*, BBS, Dhaka.

Besley, Timothy and Stephen Coate, 1995, "Group lending, repayment incentives

28) 1970年代に災害や飢饉などの救済を中心に活動してきたNGOは，1970年後半から，民衆の意識化と団結をすすめ積極的な社会参加と自助，自立を実現していく，すなわち底辺層のエンパワメントを構築していくアプローチに取り組んでいる［大橋 1993: 262–268 参照］。

and social collateral," *Journal of Development Economics*, Vol. 46: 1–18.

Devereux, John and Raymond P. H. Fishe, 1993, "An Economic Analysis of Group Lending Programs in Developing Countries," *The Developing Economics*, Vol. 31: 102–121.

荏開津典生　1988「アジア諸国の農村金融市場」『金融構造研究』第10号：33–39。

Fuglesang, Andreas and Dale Chandler, 1994, *Participation As Process——what we can learn from Grameen Bank, Bangladesh——*, Grameen Bank, Dhaka.

藤田幸一　1990「バングラデシュにおける土地なし貧困層への金融——グラミン銀行をめぐって——」『アジア経済』第31巻第6・7号：143–160。

Ghai, Dharam, 1984, *An Evaluation of the Impact of the Grameen Bank Project*, Grameen Bank, Dhaka.

Gibbons, David S., 1995, *The Grameen Reader*, Grameen Bank, Dhaka.

Goetz, Anne M. and Rina Sen Gupta, 1996, "Who Takes the Credit? Gender, Power, and Control Over Loan Use in Rural Credit Programs in Bangladesh," *World Development*, Vol. 24, No. 1: 45–63.

Grameen Bank, 1995, *Annual Report 1994*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1994, *Annual Report 1993*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1993, *Annual Report 1992*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1992, *Annual Report 1991*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1990, *Annual Report 1989*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1989, *Annual Report 1988*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1988, *Annual Report 1987*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1987, *Annual Report 1986*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1986, *Annual Report 1985*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1985, *Annual Report 1984*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1990, *Training Guide*, Grameen Bank, Dhaka.

Grameen Bank, 1990, *The Grameen Bank Ordinance 1983*, Grameen Bank, Dhaka.

原　忠彦　1981「バングラデシュの男と女 (2)」『世界と人口』7月号第92号：28–34。

原　忠彦　1976「バングラ・デシュの女性——被扶養者として，債権者として」『ジェリスト増刊総合特集3　現代の女性——状況と展望』：297–303。

本田恵理 1992「インフォーマル・セクターと開発援助について」『国際協力研究』第8巻第2号：61–71。

Hoff, Karla and Joseph E. Stigliz, 1990, "Introduction: Imperfect Imformation and Rural Credit Markets——Puzzles and Policy Perspectives" *The World Banks Economic Review*, Vol. 4, No 3: 235–250.

Holcombe, Susan, 1995, *Managing to Empower*, University Press Limited, Dhaka.

Hossain, Mahabub, 1993, "The Grameen Bank: Its Origin, Organization and Management Style," *The Grameen Bank——Poverty Relief in Bangladesh——*, ed. Wahid, Abu N.M., Westview Press, Colorado: 9–22.

Hossain, Mahabub, 1983, "Credit Programme for the Landless——The Experience of Grameen Bank Project," presented at the 4th National Conference of Krishi Arthoniti Samity (Agricultural Economists' Association) held at Dhaka on 8–9 September, Grameen Bank, Dhaka.

Islam, Nuzrul, Amirul Islam and Architect Khadem Ali, 1989, "Evaluation of The Grameen Bank's Rural Housing Programme," *Centre for Urban Studies*, University of Dhaka, July, Grameen Bank, Dhaka.

泉田洋一，万木孝雄 1990「アジア農村金融と農村金融市場論の検討」『アジア経済』第31巻6・7第号：6–21。

泉田洋一　1988「アジアの農村金融市場（上）」『農林金融』第6月号：438–445。

泉田洋一　1988「アジアの農村金融市場（下）」『農林金融』第7月号：366–371。

加藤　譲　1985『農業発展と政策金融』楽遊書房。

Khandker, Shahidur R., Baqui Khalily and Zahed Khan, 1995, *Grameen Bank——Performance and Sustainability——*, World Bank Discussion Papers No. 306.

茨口善美　1993「自然と人々の生活」『もっと知りたいバングラデシュ』弘文堂：2–17

岸真　清　1990『経済発展と金融政策』東洋経済新報社。

北原　淳著　1994『東南アジアの社会学』世界思想社。

クルーグマン，ポール　1997「『アジアの奇跡』は終わったのか」『This is 読売』（5月号）：180–193。

クルーグマン，ポール　1994「アジアの奇跡はまぼろしなのか」『フォーリン・アフェアーズ』（11・12月号）。

高坂　章　1993「アジア諸国の金融改革」『フィナンシャルレビュー』第27巻：77–96。

Maharjan, Keshav Lall, 1997, *Impacts of Irrigation and Drainage Schemes on Rural Economic Activities in Bangladesh*, Research Center for Regional Geography Hiroshima University.

Mizan, Anion Nahar, 1994, *In Quest of Empowerment——The Grameen Bank Impact on Women's Power and Status——*, University Press Limited, Dhaka.

岡本真理子　1997「小規模信用貸付と貧困緩和」『南の風』（シャプラニール会報4月号）第148号：4–5。

岡本真理子　1995「農村小規模信用貸付市場におけるセミフォーマル金融機関の意

義と可能性」『開発援助研究』：100–123。

大橋正明　1997　「海外経済協力基金によるグラミン銀行受益者の生活実態調査への協力」『南の風』（シャプラニール会報6月号）第150号：2–5。

大橋正明　1993　「より良き協力への模索」『もっと知りたいバングラデシュ』（臼田雅之他編）弘文堂：262–274。

Ray, Jayanta Kumar, 1987, *To Chase a Miracle——A Study of the Grameen Bank of Bangladesh——*, University Press Limited, Dhaka.

Rhaman, Atiur, 1994, *Demand and Marketing Aspects of Grameen Bank*, Grameen Bank, Dhaka.

佐藤宏編　1990　『バングラデシュ——低開発の政治構造』アジア経済研究所。

世界銀行　1995　『世界開発報告1995』。

シャムス，カリッド　1996　「事業家で目指す貧困撲滅」『国際協力プラザ』8月号，国際協力推進協会：28–31。

Stiglitz, Joseph E., 1990, "Peer Monitoring and Credit Markets," *The world bank economic review*, Vol.4, No. 3: 351–366.

高田峰夫　1991　「『農民社会』・『農民』・農業外労働」『民族学研究』第56巻第1号：20–44。

Todd, Helen, 1996, *Women at the Center——Grameen Bank borrowers after one decade——*, Westview Press, Colorado.

臼田雅之　1996　「バングラデシュ」『南アジアを知る辞典』平凡社：844–849。

臼田雅之，佐藤　宏，谷口晋吉編　1993　『もっと知りたいバングラデシュ』弘文堂。

内田雄造　1997　「アジア地域におけるまちづくりに関する研究」『東アジアへの視点』国際東アジア研究センター：63–141。

宇和川正人　1992　「バングラデシュのメガプロジェクト」『土地改良』第162号：62–65。

渡辺龍也　1997　『「南」からの国際協力——バングラデシュ　グラミン銀行の挑戦』岩波ブックレット No. 424。

渡辺龍也　1993　「土地なし貧困層の潜在力を開花——バングラデシュのグラミン銀行」『国際開発ジャーナル社』9月号第440号：88–92。

渡辺利夫編　1994　『アジア経済読本』東洋経済新報社。

渡辺利夫，足立文彦著　1994　『図説アジア経済』日本評論社。

山本裕美　1990　「特集にあたって」『アジア経済』第31巻第6・7号:2–5。

吉田秀美　1996　「グラミン銀行の経験の移転可能性について」『開発援助研究』第3巻第1号：47–74。

Yunus, Muhammad, 1996, *Jorimon and Others——Faces of Poverty——*, Grameen

Bank, Dhaka.

Yunus, Muhammad, 1994, "Credit is a Human Right," The speech was delivered in Colombo, on March 22, Grameen Bank, Dhaka.

Yunus, Muhammad, 1982, "Grameen Bank Project in Bangladesh——A Poverty Focused Rural Development Programme-," Presented at the Workshop on Poverty Focused Rural Development and Small Farmer, Credit for South Asia, the Pacific and East Africa, at the Bangladesh Academy for Rural Development (BARD), in Comilla on 22–27 March, Grameen Bank, Dhaka.

Yunus, Muhammad, 1981, "Rural/Agricultural Credit Operations in Bangladesh," presented at the Annual Conference of the Bangladesh Economic Association held in Dacca on 8–9 September, Grameen Bank, Dhaka.

Yunus, Muhammad, 1978, *Grameen Bank Project*, Grameen Bank, Dhaka.

Yunus, Muhammad & Rhaman Jowshan Ara, 1980, "Jobra: The Grameen Bank Project," the journal of UNICEF in Bangladesh, No. 8, April, Grameen Bank, Dhaka.

Wahid, Abu, N. M. ed, 1993, *The Grameen Bank——Poverty Relief in Bangladesh*, Westview Press, Colorado.

Summary

A Study on the Grameen Bank of Bangladesh (1)

Kazuko Tatsumi and Takeyoshi Higuma

The Grameen Bank is a rural bank in Bangladesh that provides credit and organizational to the poor, who are excluded from the formal credit system many times because they lack material collateral. The financial institution has replaced social collateral requirements with group responsibility. The Grameen Bank improves the productivity and income of the poor and promotes social development.

The banking system reduced transaction cost by group lending and the delivery system. Group lending also improves screening, monitoring and enforcing repayment.

The Grameen Bank has problems such as the sources of borrowed capital, the activitywise of loans, cost management and so on.

The Grameen Bank's experience is very informative.

This paper is a report on the system and the experience of the Grameen Bank in Bangladesh. The first part of this study is aimed primarily at the arguments about the banking system of the Grameen Bank.